

立梅用水型 小水力発電プロジェクト

~Power of the TACHIBAI~

想い

昨今、自然エネルギーの存在が見直され、その価値について様々な議論が行われています。小水力発電についても例外ではなく、これまで利用されてこなかった水力を利用しようとする試みが全国各地で始まっています。私たち水土里ネット立梅用水でも小水力発電の可能性は探ってきましたが、従来の小水力発電では土木建築施設を必要とするため経済性が低く小水力発電の実現には至りませんでした。一方で、多くの農村地域では高齢化の進行、非農家の増加などにより農家を中心に形成してきた農村コミュニティが崩壊されつつあります。このような状況の中、農村地域が本来持っている地域（農村）協働に今一度着目し地域活性を図ることが大切だと考えています。そこで、立梅用水型小水力発電では地域住民の主体性で、電力の地産地消を行い地域活性を図ることを目的に「立梅用水型 小水力発電プロジェクト~Power of the TACHIBAI」は発進しました。



発電機「彦電~HIKODEN~」

「彦電~HIKODEN~」の由来

立梅用水創設功労者「西村彦左衛門」に感謝の気持ちを込めて一文字を頂き、みんなが覚えやすいように、親しみやすいようにとの想いが込められています。これは小学3年生の子供が考えてくれました。この想いを大切に次世代を担う子供たちに繋げていこう・・・



夢

世界初！！立梅用水型小水力発電では循環型地域社会の構築をめざしています。



目指せ！ECOエネルギーの地産地消！！

立梅用水型小水力発電プロジェクト 長期計画

立梅用水型小水力発電プロジェクトでは電力グリッドを早期に実現します！

- (1) 平成25年度から自家消費型のグリッドを検討します。
このステージでは、農業生産のための獣害対策や種籾の温騰消毒、6次産業施設の動力源として蓄電池を併用しつつ電力を供給することで、その価値の向上を目指します。
- (2) 平成26年度からは自前の電線を整備し、コミュニティグリッドを検討します。
このステージでは、自家消費型のグリッドの連結拡大を図り、地区内にその電力を配電し、低炭素型社会を実現し、ブランド化を目指します。
- (3) 平成27年度以降は多気町内での利用、送電（系統連系）を検討します。



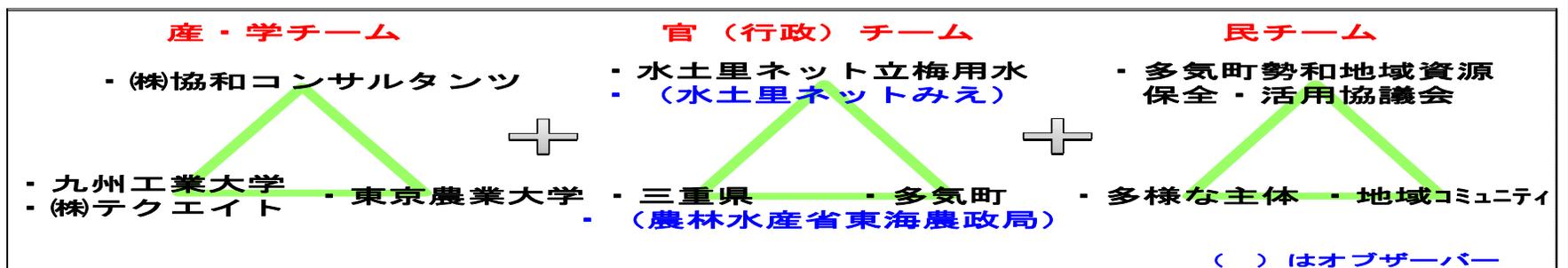
※コミュニティグリッドは、小水力発電の電力だけでなく、電力を利用する人たち（コミュニティ）も結ぶ（グリッド）のことを指します。



プロジェクトの概要

(プロジェクト体制)

産学 + 官 + 民による協働プロジェクト



多気町勢和地域資源保全・活用協議会

- ・ 平成19年度から「農地・水・環境保全向上対策（農水省助成事業）」として発足
- ・ 「農村協働力（地域の絆）」の向上を図りつつ、農村地域の課題を住民自らが解決する
- ・ 参加団体：22団体